



# 地域防災活動の原点となった 「家具転倒防止モデルハウス」

徳島県鳴門市川東地区自主防災会

## 1 鳴門市と南海トラフ巨大地震

鳴門市は、四国の東端、徳島県の北東端、鳴門の渦潮で有名な鳴門海峡の西側に位置し、面積は135.66 km<sup>2</sup>、人口は60,161人（平成27年11月末）の海と山の自然に囲まれたまちです。

平成24年10月に徳島県が公表した南海トラフ巨大地震の津波浸水想定では、最大約8mの津波が市内沿岸を襲うとされ、市の面積の4分の1が浸水し、多大な被害が発生すると想定されています。

## 2 地域を守る自主防災会

南海トラフ巨大地震のように大規模な災害が発生した場合、行政機関や職員も被災する可能性が高く、行政機関等による迅速な救援活動は期待できません。

こうしたことを踏まえ、市では「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚・連帯感に基づき、自主的・主体的な防災活動を行う自主防災会の組織率100%を目指し、地域住民等に働きかけ、平成24年9月に市内全域で42の自主防災会が結成されました。

そのなかのひとつに、川東地区自主防災会があります。この川東地区自主防災会は、平成20年に結成されて以来、会員が率先して普通救命講習や防災研修を受講し、会員の防災意識の高揚に努めるだけでなく、希望者宅への家具転倒防止工事の実施、折り込み紙に「自主防災会からのお知らせ」を毎月連載するなど、地域住民の防災意識の啓発に積極的に取り組んでいます。

## 3 ひとりの思いから始まった 「家具転倒防止モデルハウス」

そして、平成21年11月より家具転倒防止の普及・啓発を図るため、「家具転倒防止モデルハウス」の運営を開始し、これまでに県内外から600人以上の見学客を受け入れています。

このモデルハウスは、自主防災会の会員である川崎さんの「震災から一人でも多くの命を救いたい」との一心でご自宅にある家具をひとつひとつ金具で固定し、自宅を家具転倒防止モデルハウスとして一般公開したものです。

そこでは、地震の激しい揺れに備えて「家



家具の固定や固定費用を紹介



台所の冷蔵庫等も固定し、見学できる

具・家電の転倒防止」「食器棚の扉開放防止」「ガラスの飛散防止」など、耐震化工事よりも手軽で安価な地震対策を紹介しています。

また、見学客には、家具を固定する方法をレクチャーするだけでなく、地震が起きたときに被害を最小限にするための家具のレイアウトについてもアドバイスしています。

モデルハウスの一般公開は、当初2か月間と期間を限定していましたが、公開開始から多くの方から注目を集め、公開終了を惜しむ声が多数寄せられたことから、開始から6年を経過した今もなお一般公開を続けています。

#### 4 モデルハウスをきっかけに大きく広がる防災活動

川東地区自主防災会は、このモデルハウスを地区の防災対策の象徴として位置付け、この活動をきっかけに様々な防災活動に取り組んでいます。

東日本大震災以降は、小中学校と連携し、地区のシンボルである妙見山で津波避難訓練を実施し、平成25年からは、市の行事の「子どものまちフェスティバル」に水消火器やロープワークを体験できる防災ブースを出展するなど、活動の幅を広げています。

さらに平成26年からは、地元企業の「株式会社大塚製薬工場」と連携を図り、津波避難ビルに指定されている工場倉庫に地域住民の物資を備蓄したほか、地域・企業・警察・消防・市等と連携した合同津波避難訓練を実施するなど、様々な団体と連携を深め、安心・安全なまちづくりを目指す活動を行っています。

そして、平成27年6月、内閣府が実施するコミュニティレベルでの防災活動の促進

を目的とする地区防災計画モデル事業に「大塚製薬工場と周辺自主防災会」として、



大塚製薬工場と連携して実施した津波避難訓練

隣接する里浦地区自主防災会連合会とともに取り組むこととなりました。

それからは、災害時に自主防災会員それぞれが実践する内容を時系列に記載した「アクションカード」を作成するワークショップを実施し、地域住民、企業による地区防災計画策定に向けて取り組みを開始しています。

#### 5 結びに

川東地区自主防災会が、第19回防災まちづくり大賞において「日本防火・防災協会会長賞」を受賞したことは、まぎれもなく、これまでの取り組みが評価されたものと思います。

また、この受賞は、何の見返りを求めずに、ただただ地域のために誠実に取り組んできた自主防災会の皆様ひとりひとりに頂いた賞であると感じています。

そして、今回の受賞により、一人でも多くの市民の皆様がこのような素晴らしい活動を知るきっかけとなり、自主防災活動への積極的な参加につながることを切に願っております。